

拝啓 今年も早や3月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、こぶしとハクモクレンが、終わりに近づき、桜が満開になりました。

今月は、カウマン夫人編著の『日の出に向かって』（日本ホーリネス教団出版部）の4回目です。4月29日の所に、次のように書かれています。

「悩みや試練の黒雲は、神の恵みの伝達手段であり、私たちの心を柔らかくし、豊かにして、神のために実を結ぶ役に立つものにするために、神から送られたものであると私たちは気が付きません。神は厚い雲を通して見ておられ、ご自分の民を見守られ、養われることを覚えなさい。神を信じて元気でいなさい。」

過去を振り返ってみると確かにその通りだったと思うことがあります。

2月21日に、アメリカの伝道者ビリー・グラハム先生が亡くなりました。99歳でした。私は、1980年10月、5日間の東京後楽園球場でのクルーセード（伝道集会）があった時、電車の中刷り広告でそれを知り、3日目から参加しました。大変力強いメッセージで、最終日、私はスタンドからグラウンドにおいて、色々指導の冊子を頂きました。

ビリー・グラハム先生の教えにより、今でも毎朝の祈りの中で「イエス様が、私の身代わりとして十字架に架かれたこと、罪より離れて生活すること」を加え、「毎日祈りなさい。毎日聖書を読みなさい。教会に通いなさい。信仰を証しする人となりなさい。」という実践の教えを唱えています。

そのほか、当時ビリー・グラハム先生の本を探して、『今日のみことば』という本を見つけ、読みました。そして、このような毎日1ページで教えを編集している本（霊想書）は、その著者のエッセンスが詰まっていて、感銘深いことを知り、その後、内村鑑三先生の『一日一生』『統一日一生』、新渡戸稲造『一日一言』、スポルジョンやカウマン夫人の本など、霊想書をずいぶん読みました。今でも小西先生の『主の御名を呼ぶ』と新渡戸先生の『一日一言』をはじめ、毎朝何冊か読んでいます。このエンカウンターで、ご紹介している本は、そのようにして読んで感銘を受けた本から紹介をしております。そういうわけで、ビリー・グラハム先生は、私の信仰に大きな影響を与えられました。

3月21日から23日まで、川口重雄先生主催の東日本大震災被災地研修旅行に参加して、福島県内の原発と津波の被災地を見学してきました。一番ショックだったのは、福島原発に近い並江町の旧市街地を通った時、家はもとのまま立っているのですが、住む人がないため、ゴーストタウンになっている光景でした。原発にいったん事故があると、こんなに広い範囲で人が住めなくなるのであれば、原発には反対せざるを得ないように思いました。

今年は冬寒い日が多かったと思いますが、急に暖かくなって、桜が例年より1週間ほど早く咲いたようです。これから、いい時期が続くと思いますが、どうぞ皆様、健康に留意されて、毎日をお元気で過ごしてください。

敬具

平成30年2月28日

山口周三

エンカウンターの読者各位